



令和4年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業〔主催＝日本武道館・全日本銃剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁・勝浦市教育委員会、協力＝勝浦市立勝浦中学校（千葉県）〕を、12月9日から11日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて実施した。

スポーツ庁が令和元年度から実施している、外部指導者を活用した複数の武道種目を選択する「武道推進モデル校」のさらなる拡充に向け、全日本銃剣道連盟が作成した授業指導案を検討。勝浦市立勝浦中学校の生徒（22名）の協力を得て、模擬授業を展開した。

◆1日目（12月9日）

開講式では、はじめに市野保巳^{いちのやすみ}全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事、吉川英夫^{よしかわひでお}日本武道館理事・事務局長が、それぞれ主催者挨拶を述べた。

開講式終了後は、加藤弘晃^{かとうひろあき}研究者を体育教師、その他の研究者を外部指導員と想定した上で、銃剣道授業班と短剣道授業班に分かれ、翌日の模擬授業の展開について話し合いを行った。生徒の体力面や楽しみながら授業を受けてもらうための工夫について様々なパターンを考慮に入れながら検討を重ねた。

◆2日目（12月10日）

午前中は勝浦中学校卓球部の協力のもと、3時間の授業時間を想定した銃剣道の模擬授業を行った。外部指導員として滝沢元気^{たきざわげんき}研究者、菊池聡^{きくちさとし}研究者が就き、1時間目は銃剣道の歴史を学び、部位と用具の説明、礼

法、木銃の取り扱い方の指導を行った。続けて2時間目は構えの姿勢と足さばき、突きの動作の確認を行い、3時間目は「格好よく・楽しく・安心・安全」をテーマに、ゲーム性を取り入れた新聞紙突きやボール突き、グループに分かれて足さばきなどの動きを付けた突き技のゲームを行った。

休憩を挟み、午後は同じく勝浦中学校の吹奏楽部協力のもと、2時間の授業時間を想定した短剣道の模擬授業を行った。外部指導員として石川慎也^{いしかわしんや}研究者、田村聖一^{たむらせいいち}研究者が就き、1時間目は導入として武器ということに特化して短剣道の用具の説明を行った。続けて短竹刀の持ち方や構え方、足さばき、突きの動作の指導を行った。授業の最後には自分の足さばき・突きの動作の様子を動画に収め、2時間目の始めにその動画を見返した。続けて動画を活かして、新聞紙突きと打ち込みの指導を行った。その後、突き動作を取り入れたボウリングゲームを行い、授業の締めくくりとして全ての動作の振り返りを行った。生徒たちは休憩時間の間も自主的に練習を行うなど、終始楽しそうな様子が見受けられた。

模擬授業後、生徒たちのアンケート結果や授業の様子を振り返り研究事業を行った。今後の研究事業の課題としてICTの活用方法やゲームのさらなる発展などが挙げられた。



◆3日目（12月11日）

3日目は、大町町立小中一貫校大町ひじり学園の7年生（中学校1年生）を対象に行われた、銃剣道の授業の様子を撮影したビデオを視聴し、意見交換を行った。

閉講式では石川研究者が講評を行い、全日程を終了した。